

次世代型教員養成の 在り方について

― 高校生を対象とする
奈良県次世代教員養成塾の取組 ―

Kenji Takemura

竹 村 謙 司

奈良教育大学教育連携講座

次世代型教員養成の在り方について

－高校生を対象とする奈良県次世代教員養成塾の取組－

奈良教育大学 教育連携講座 竹村 謙司

1. はじめに 一次世代って何？

これからの教育を担う次世代型の教員を養成するために、奈良県では高校生を対象とする取組である「奈良県次世代教員養成塾」というプログラムが実施されています。このプログラムには「次世代教員」という言葉がありますが、「次世代」という言葉を聞いて、どのようなイメージをもつでしょうか。

「Z世代」という言葉があります。Z世代とは、1990年代後半から2010年頃に生まれた世代を指しています。アメリカでは「ジェネレーションZ」と呼称することから、日本でもその呼び名が浸透し始めています。

Z世代の特徴のいくつかを挙げると、生まれたときからインターネットやパソコン、スマートフォンなどのデジタル機器が身の回りにある「デジタルネイティブ」世代です。また、FacebookやTwitterなどの革新的ビジネスの創業者の存在や、ユーチューバーの活躍など、これまでの「いい大学に入り、いい企業に勤める」以外にも成功方法があることをよく知っており、「起業家精神が旺盛」な世代です。

さらに、インターネットを使用して世界中の情報を得ることができる「グローバルな視点」があり、人種や性別などにおいて「偏見が少なく」、社会や環境などの課題に対して積極的に取り組む「社会的課題への意識が高い」世代だと言われています。

小学校をはじめとした現在の学校では、グローバル化の進展や人工知能（AI）の飛躍的進化など、社会の加速度的な変化を受け止め、将来の予測が難し

い社会の中でも、伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、志高く未来を作り出していくために必要な資質・能力を子どもたちに育むことが求められています。

「次世代の学校」では、今まで以上に子どもたちに向き合う時間を確保し、質の高い授業や個に応じた重点的な学習指導により、これからの時代に必要な資質・能力を保障していく必要があります。さらに、多様な子どもたち一人一人の状況に応じ、それぞれが持つ能力を最大限に伸長していく必要があります。

まさに「Z世代」すなわち「次世代」であるこれからの人材が、「自分とつながり」、「人とつながり」、「学びとつながる」ことで、「次世代の学校」を支える「次世代の教員」としての力を身に付けてくれることを願い、「奈良県次世代教員養成塾」の取組について述べたいと思います。

2. 奈良県次世代教員養成塾とは

奈良県次世代教員養成塾は、奈良県教育委員会と県内に大学法人を置く教員養成系大学（畿央大学、帝塚山大学、奈良学園大学、奈良教育大学、奈良女子大学、大和大学）が連携して、奈良県内の高等学校等に在籍する小学校教員を目指す生徒を対象に、未来の本県教育を担う資質・能力を育成することを目的として、高等学校の2年間と大学進学後4年間の6年間を通して継続したプログラムを実施する、全国初の取組です。具体的には、奈良県内の高等学校又は中等教育学校に在籍する生徒を対象とする前期プログラムと、大学進学後も継続して実施する後期プログラムによって構成されています。

前期プログラム（図1、図2）は、奈良県内に大学法人を置く教員養成系大学（畿央大学、帝塚山大学、奈良学園大学、奈良教育大学、奈良女子大学、大和大学）が中心となって講座を運営します。第1期受講生については平成30年10月から令和元年8月まで、第2期受講生については令和元年10月から令和2年8月までの月1回程度、原則として土曜日に計10回のプログラムを実施しました。第3期受講生については、令和2年10月から令和3年8月までの月1回程度、計10回のプログラムを実施予定です。

本プログラムは、小学校の教員を目指す高校生が、「学ぶこと」の意味を考え、自らの目標を達成するため主体的に学ぶとともに、キャリアデザインにつなげていける内容で構成されています。前期プログラム修了時点において、各大学

で行われたプログラムごとの評価を総合的に判断し、修了認定を行うとともに、修了者に対しては「学校外における学修等の単位認定」制度を活用し、在籍する高等学校において単位を認めることも可能としています。

2018.10.6 資料

奈良県次世代教員養成塾（前期プログラム）オリエンテーション

1. 第1期前期プログラムの概要 …… 約3時間×10回（月1回、土曜日に実施予定）

高校2年生	テーマ	高校3年生	テーマ
10/6（第1回）	ガイダンス・教職へのビジョン	4/13（第6回）	私も小学生だった
11/17（第2回）	人間理解・他者理解を深める	5/11（第7回）	「理科」は好きですか
12/15（第3回）	郷土を愛することについて	6/22（第8回）	短歌・俳句を学び、作ってみよう 他
1/12（第4回）	外国語とコミュニケーション	7/20（第9回）	大学生の間にやっておきたいこと
2/9（第5回）	先生を目指す私	8/3（第10回）	私の理想の先生像

図1 前期プログラムの概要



図2 各講座の様子

後期プログラム（図3）は、奈良県立教育研究所が中心となって運営し、前期プログラム修了者で教員養成系大学の小学校教員養成課程に在学する学生を受け入れます。大学1、2年次では、社会体験活動、読書活動、インターンシップ、レポート等の活動を行い、その報告書の提出等を中心に実施する予定です。大学3年次では、当研究所での講義・演習を実施することで実践指導力を育成し、大学4年次の4月に後期プログラムの修了認定を行うこととしています。また、更に高い資質・能力の育成を奨励する観点から、後期プログラム修了後、大学院・教職大学院に進学することを奨励する予定です。

R2.6月資料			
奈良県次世代教員養成塾（後期プログラム）オリエンテーション			
1. 第1期後期プログラムの概要			
① 大学1、2年次 …… 各年次とも約3時間×3回（年間3回、日曜日に実施予定）			
大学1年次 (令和2年度)	テーマ	大学2年次 (令和3年度)	テーマ
6/28 (第1回)	開講式・教職に向けての大学での取組	6/20 (第4回)	社会体験活動
9/6 (第2回)	読書活動	9/19 (第5回)	インターンシップ
1/17 (第3回)	外国語教育	1/23 (第6回)	2年間の振り返り・教職へのビジョン
② 大学3年次 …… 約3時間×8回（月1回、日曜日に実施予定）			
大学3年次 (令和4年度)	テーマ	大学3年次 (令和4年度)	テーマ
4/24 (第1回)	ガイダンス・講演・学校現場実習について	10/16 (第5回)	学級づくり・道徳教育研修
5/22 (第2回)	モデル授業・授業づくり	11/20 (第6回)	模擬授業・命の教育に関する研修
7/3 (第3回)	模擬授業・人権教育研修	12/18 (第7回)	模擬授業
8/21 (第4回)	模擬授業・生徒指導研修	2/19 (第8回)	模擬授業・講演・閉講式

図3 後期プログラムの概要

3. 研究の流れ

第1期受講生については、前期プログラム開始前の時期である平成30年9月に4件法による質問紙調査を行い、教員としての素養となる次の5つの測定尺度について、その時点での実態を把握しました。

- ①「自己理解・自己管理能力」（自己の可能性を含めた肯定的理解に基づき、主体的に行動すると同時に自らの感情や行動を律し自己をマネジメントしていく力）
- ②「人間関係形成・社会形成能力」（多様な他者の考えや立場を理解し、他者との円滑なコミュニケーションとともに他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力）
- ③「課題対応能力」（様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し解決することができる力）
- ④「キャリアプランニング能力」（様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら主体的に進路を選択・決定し、その進路に向かって準備・計画していく力）
- ⑤「教職開発力」（教員としての仕事や職業に関する諸能力を身に付けるとともに、教員養成の視点から見た自らの職業的能力を開発していく力）

その後、第5回講座修了時の平成31年2月及び第10回講座修了時の令和元年8月にそれぞれ同内容の質問紙調査を行い、5つの測定尺度について、前期プログラムを受講してどの程度の向上が見られたかを調査することで、定量的な分析を行いました。質問紙調査の項目については、表1に示すとおりです。

表1 質問紙調査の項目

次元(上位尺度)	項目(下位尺度)
自己理解・ 自己管理能力	2 自分のことが好きである。 10 毎日の生活が楽しい。 12 自分自身に自信をもっている。
人間関係形成・ 社会形成能力	5 人との調和やルールを重んじている。 7 他の人に対して、誠実であるように心がけている。 9 人とのつながりを大切にしている。
課題対応能力	1 重要な決定の結果、起こっているいろいろな可能性について推察できる。 8 困難な事態に直面したとき、どこに問題があるかすぐに見つけることができる。 11 よりよい解決策を見つけるために、できるだけ多くの情報を集められる。
キャリアプラン ニング能力	3 今後の人生に向かって、準備していることがある。 6 今後の仕事や人生についての展望をもっている。 13 今後の人生に向かって、何か計画している。
教職開発力	4 社会の出来事に絶えず注目し、それを教える内容に活かしたい。 14 「よい授業」「よい教員」を目指して意欲的に取り組みたい。 15 自分自身の実践を振り返り、評価・改善することで自己の教員としての力量を高めたい。

※表中の数字は、質問項目番号である。

さらに、各講座終了時に、講座テーマの理解や講座テーマに関する自己の課題、その課題の改善等を記述する「振り返りシート」(図4)を記入してもらい、その記述内容について定性的な分析を行いました。第2期受講生についても、前期プログラム開始前の時期である令和元年9月に質問紙調査を行い、第1期受講生と同様の流れで調査を行いました。

平成30年度 奈良県次世代教員養成塾（前期プログラム）振り返りシート	
平成〇年〇月〇日（土）実施 第〇回 講座テーマ【 〇〇〇〇 】 担当大学【 〇〇〇〇大学 】	
学校名	受講番号 名前
1 この講座の内容及び目標を記入してください。 	
2 この講座を受講して、講座テーマについて何を理解することができましたか。 	
3 この講座を受講して、どのような「交流」「体験」「振り返り」がありましたか。 	
4 この講座のテーマに関して、小学校教員を目指す上で、あなたの課題はどのようなものですか。 その課題の改善のために、どのようなことに取り組みたいですか。	
【裏面に続く】	

5 この講座を受講して、「学ぶことの楽しさ」について分かったことや「教えることの楽しさ」について考えたことは何ですか。
6 この講座を受講する前と比べて、自分自身でどの程度向上したと思いますか。該当するところに○を付けてください。 ① あなたは講座の内容の理解が深まりましたか。 A 深まった B 概ね深まった C あまり深まらなかった D 深まらなかった ② あなたは講座の目標が達成できましたか。 A 達成できた B 概ね達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった
7 この講座の内容は今後の進路実現に活用できるものでしたか。 A 活用できる B ほぼ活用できる C あまり活用できない D 活用できない どのような場面で活用できますか。
8 この講座の感想や内容等について意見があれば書いてください。

図4 振り返りシート

4. 結果と考察

(1) 質問紙調査の分析

質問紙調査の各項目に対して、調査前後における同一測定尺度の平均値の差が統計的に有意かどうかを確かめるために、t検定を行うとともに、5つの尺度に関する質問項目のまとまりについての信頼性を検討するため、 α 係数を算出しました。

第1期受講生の第1回質問紙調査（9月）と第2回質問紙調査（2月）を比較した結果、 α 係数については、「教職開発力」を除く4つの測定尺度に関する質問項目のまとまりにおける信頼性が見られました。t検定については、

「課題対応能力」に関する質問項目 8「困難な事態に直面したとき、どこに問題があるかすぐに見つけることができる」でのみ得点が有意に向上しました。これは、各回の講座で受講生に伸ばしたい力を明確に示し、自ら考え、自らの言葉で表現する（書く、説明する等）活動を重視し、必ず「交流」「体験」「振り返り」の時間を設けたことから、「学習者」としての多様な経験を積み重ねる中で、向上が見られたと考えられます。

さらに、第 1 期受講生の第 1 回質問紙調査（9 月）と第 3 回質問紙調査（8 月）を比較した結果、 α 係数については、「自己理解・自己管理能力」「人間関係形成・社会形成能力」「課題対応能力」の 3 つの測定尺度に関する質問項目のまとまりにおける信頼性が見られました。t 検定については、15 項目中 10 項目で得点が有意に向上し、すべての測定尺度で得点が有意に向上した質問項目が含まれていました。第 1 回講座から第 5 回講座までの講座内容は、「自己理解・自己管理能力」や「人間関係形成・社会形成能力」に関わるパーソナリティ・資質に関する内容であり、様々な受講生と交わる中で、自尊感情やコミュニケーション、多様性理解の困難という内的危機を認知する期間であったと考えられます。第 6 回講座から第 10 回講座までの講座内容は、パーソナリティ・資質に関する内容を踏まえながら、「課題対応能力」や「キャリアプランニング能力」、「教職開発力」に関わる学習力・授業力、キャリアデザインについての内容となっています。教員を目指す自分自身のアイデンティティ（自己同一性）を模索しながら各回の講座を受講する中で、内的危機を主体的に解決していったことが、すべての測定尺度で得点が有意に向上した質問項目が含まれる結果につながったと考えられます。全 10 回の講座の内容構成から、受講生は、螺旋的に、各能力を発達させたことが推察されます。

(2) 振り返りシート調査の分析

受講生の質的な変容を見るため、各講座時に「振り返りシート」（図 4）を作成し、講座内容の振り返りを行いました。記述内容としては、「講座テーマの理解」「講座を通しての他者との交流等」「講座テーマに関する自己の課題」「自己の課題の改善」「学ぶことや教えることの楽しさ」「講座内容の進路実現への活用」等となっています。第 1 期受講生の第 1 回質問紙調査（9 月）

と第3回質問紙調査（8月）の比較における α 係数で、質問項目のまとまりにおける信頼性が見られた測定尺度である「自己理解・自己管理能力」「人間関係形成・社会形成能力」「課題対応能力」について、それぞれ特徴的なものを、表2に事例1から事例3として取り上げています。各尺度の得点が3点以上増加もしくは減少した者（○が増加、▲が減少）を抽出しました。

表2 振り返りシートの記述

事例1：「自己理解・自己管理能力」 ○キャリアエッセイを通して、それぞれの考えや思いを話し合う「交流」、それらをまとめて発表する「体験」、今までの講座も含め、自分の変化やこれからのことを見つめ直す「振り返り」がありました。今までのそれぞれ学んだことの振り返りを通して、自分がどのように変わったのか、自分がこれからしたいこと、すべきことは何なのかを理解できました。 ○10回の講座を通して、仲間とともに成長することができ、自分はとても恵まれた環境の中で学ぶことができていると改めて実感しました。私はこの講座で自分に自信がつき、心の中で大きな変化がありました。感謝の気持ちでいっぱいです。後期プログラムもぜひ受講したいと強く思いました。
事例2：「人間関係形成・社会形成能力」 ○グループミーティングのとき、「一体感が出てきた」という私の意見に対して、一人一人がコミュニケーションの大事さを実感し、意識するようになったことが影響しているのではないかという意見をもらい、とても印象的でした。10回の講座を通して、よい経験ができた実感した瞬間でした。 ▲当たり前のことやきまりについて考え、特に、自分の当たり前は他人の当たり前ではないことを再認識しました。これまでを振り返ると、迷惑をかけていたとを感じる部分があり、もう一度自分を見直して、周りに気を配れる人間にならなければと感じました。
事例3：「課題対応能力」 ○子どもの目線や教員の目線、そしてそれを目指す自分の視点、あらゆる方向から物事を観察し、理解した後にそれを応用して教える力、これらを、これからの講座、大学での授業、日頃の生活から磨いていきたいです。 ○人前で話すときに緊張で下を向きがちだから、みんなの顔を見て情熱的に話せるようになりたいと思いました。また、人に伝える機会が増えていく中で、考えを分かってもらうために、語彙力を養いたいと強く思いました。本を読んだり、あらゆる人とコミュニケーションを積極的にとったりしていきたいです。

さらに、講座ごとに「講座の内容の理解」「講座の目標の達成」「進路実現への活用」の3項目について、4件法による調査を行いました。図5～図7にあるように、講座の回数を重ねるごとに肯定的な回答の割合は上昇しており、これまでの講座の内容を踏まえて、次回の講座に臨んでいるという意識の高さが見られ、実施した各講座の内容や配列は概ね適切であったと考えられます。

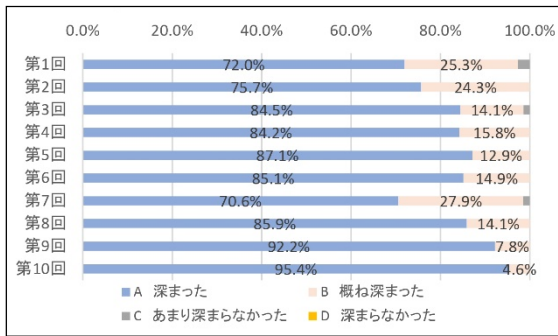


図5 講座の内容の理解

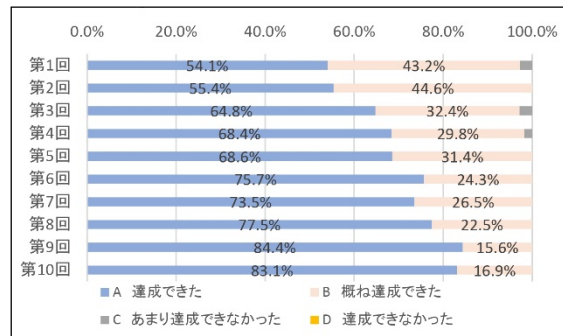


図6 講座の目標の達成

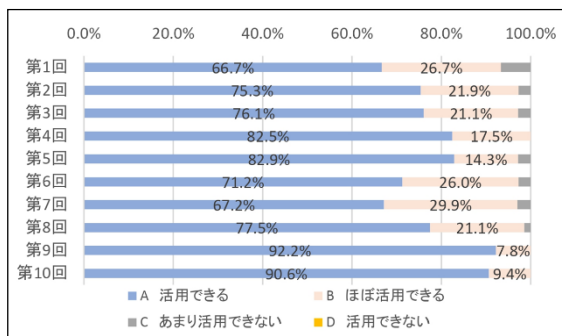


図7 進路実現への活用

5 おわりに

プログラム実施前後における受講生への質問紙調査を比較するとともに、振り返りシートの記述を分析したところ、「自己理解・自己管理能力」「人間関係形成・社会形成能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」「教職開発力」の各測定尺度において、得点が有意に向上した項目が見られ、プログラム内容の有効性が認められました。今後は各測定尺度や項目の分析を詳細に行うことで、プログラム内容の更なる改善に活用していきたいと考えています。

令和2年6月からは、第1期受講生のうち前期プログラム修了者で教員養成系大学の小学校教員養成課程に在学する学生に対して、後期プログラムを実施し、大学1、2年次では、社会体験活動、読書活動、インターンシップ、レポート等の活動を行う予定ですが、前期プログラムで目指したキャリアデザインの視点を踏まえるとともに、大学での学びとつながる、より効果的なプログラム内容を検討していくことが課題です。

今後、第3期生以降も含めた受講生を調査対象として、高等学校2年、大学4年、大学院2年の期間にわたるパネルデータを収集し、継続的な調査研究を行っていく予定です。

参考・引用文献

- ・竹村謙司、石井宏典、河崎智恵（2020）『『奈良県次世代教員養成塾』の取組と教育効果の検証 ―受講生への質問紙調査等の比較結果から―』奈良県立教育研究所令和元年度研究紀要 pp.1 1-16
- ・石井宏典、竹村謙司（2019）「次世代型教員養成の在り方に関する予備的考察 ―高校生を対象とする奈良県次世代教員養成塾受講生への質問紙調査等の結果から―」奈良県立教育研究所平成 30 年度研究紀要 pp.32-43
- ・河崎智恵、吉村雅仁、中井隆司（2015）「教職大学院におけるキャリア教育のモデル構想と教育実践 ―初等・中等・高等教育の接続・展開を視野に入れて―」日本教育大学協会研究年報第 33 集 pp.63-74
- ・河崎智恵（2010）「ライフキャリアの能力・態度に関する尺度構成の試み」キャリア教育研究 29 巻 1 号 pp.25-30
- ・文部科学省（2006）中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」
- ・文部科学省（2011）中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」
- ・文部科学省（2017）「教育公務員特例法等の一部を改正する法律等の施行について」
- ・奈良県教育委員会（2018）「奈良県教員等の資質向上に関する指標」
(<http://www.e-net.nara.jp/kenkyo/index.cfm/17,1229,c,html/1229/ikuseisihyou1129.pdf>)

竹村 謙司 (Takemura Kenji)

1990 年 京都大学理学部（数学専攻）卒業
1990 年 奈良県立高等学校教諭
2007 年 奈良県教育委員会事務局 指導主事
2018 年 奈良県立教育研究所 指導主事
2020 年 奈良教育大学 准教授



【研究テーマ】

教員養成・教員研修の高度化の実現に向けた具体的内容や実施方法の構築、教員養成講座におけるプログラム運営やプログラム内容、受講生の資質・能力の向上を促す方策について研究しています。

また、算数・数学の教科指導における、児童・生徒の思考力を高め、その特性を引き出す実践的な指導方法の開発について研究しています。

【教育について】

大学での学びを通して、教員としての基礎的な資質能力を確実に育成したいと考えています。教職実践演習を中心に、学校現場での実践に資する教育内容である、教科教育やグローバル化、特別支援教育、ICT 活用等に関する資質能力を学生の皆さんに身に付けてもらえるよう、一緒に学び支援したいと思います。

さらに、教員は養成の期間よりもその後の教職生活の方が長いことから、養成段階で獲得した資質能力の保持・向上を図るため、教職生活全体を通じて学び続ける教員を目指してもらいたいです。そのための多様なキャリアプランの在り方を、学生の皆さんに示していきたいと考えています。

【好きな言葉】一きみ自身を未来に賭けろー

人間というものは、もうダメとあきらめるのが不安への防衛で、いつまでもあきらめないで不安が残る。だから、不安というのは、あきらめてない証しでもある。過去ではなくて、いつでも未来の可能性をあきらめないことは、未来というものの不安が人間に反響することでもある。だから、不安のままで、未来に賭けよう。

（森毅「居なおり数学のすすめ」より）

【奈良教育大学を目指す皆さんへ】

この学びの場で、たくさんの「ヘウレーカ！」を積み重ねていきましょう。

（「ヘウレーカ」とは“わかった”“発見した”という意味で、ギリシャ語に由来する感嘆詞です。）

次世代型教員養成の在り方について

－高校生を対象とする奈良県次世代教員養成塾の取組－

著者 たけむら けんじ
竹村 謙司

2021 年 3 月 31 日 第 1 版

奈良教育大学出版会

〒630-8528

奈良市高畑町

TEL: 0742 (27) 9135 FAX: 0742 (27) 9147

E-mail: g-kenkyu@nara-edu.ac.jp

URL: <http://www.nara-edu.ac.jp/PRESS/>